

会 議 記 録

次の会議（委員会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	令和 8 年度 第 1 回 近江八幡市教育委員会活動の点検・評価委員会		
開催日時	令和 8 年 7 月 2 7 日（月） 1 0 時 0 0 分～ 1 1 時 1 0 分		
開催場所	近江八幡市役所 2 階 会議室 2 F・2 G		
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	出席者（敬称略） 委員長 脇田 健一（◎） 副委員長 西田 佳成（○） 委員 小川 貴子 委員 重森 恵津子 委員 大更 秀尚 欠席者 委員 圓山 淳子 事務局 教育長 安田 全男 教育委員会事務局教育総務課 傍聴者 なし		
次回開催予定日	令和 8 年 8 月 2 5 日（火）		
問い合わせ先	所属名、担当者名 教育委員会事務局教育総務課、田村・池上 電話番号 0 7 4 8－3 6－5 5 3 9 メールアドレス 040200@city.omihachiman.lg.jp		
会議記録	発言記録	・ 要約	要約した理由
内容	別紙のとおり		

発言記録

【1 開会】

○事務局

おはようございます。本日は何かとお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。ただいまから、令和8年度第1回点検評価委員会を開催いたします。本日、司会進行を務めさせていただきます事務局の澤でございます。開会にあたりまして、教育長よりご挨拶申し上げます。

○教育長

令和8年度第1回点検・評価委員会の開会に当たり、皆様方にはご多忙のところご出席賜り、また委員の就任につきましてご快諾いただきましたことに対しまして、厚く御礼申し上げます。

この点検・評価は、わたくしが教育長に就任させていただいて3回目の点検・評価をお願いすることとなります。令和6年度の点検・評価すなわち令和5年度事業に対する点検・評価をいただいた折に、プラットフォームという概念をお示ししていただき、個々の事業を評価するだけではなく、施策目標や施策課題を教育委員会がどのように関係者皆と協働しながら解決に向けて進んでいるのか、そのような評価が大事であるということをお示ししました。

昨年度は第3期教育大綱が新たに市長により定められました。今年度は第3期教育振興基本計画策定に向けて別途の策定委員会で取り組んでいるところでございます。

令和9年度から4年間の新しい計画の中でプラットフォームを5つ設定し、それを計画の中にビルトインすべく、委員の皆様方にご意見を頂戴しているところでございます。

その中で、この事業評価について、令和7年度の事業を進めるにあたって今までにはございませんでした重点ビジョンというものを教育委員会で掲げ、年度当初に関係者に説明し、そして施策に取り組んできた、その令和7年度の事業評価をしていただくということでございます。

しっかりとしたプラットフォームという形では示しておりませんが、重点ビジョンという形でお示しする中で、これをプラットフォームに見立てて、今回の事業評価におきましては、それを評価していただけるように努力してまいりたいと思いますので、そのような観点も含めまして、皆様方の忌憚のないご意見、評価を賜りたいと思います。

本日を含めて2回の事業評価になりますが、何卒よろしくお願い申し上げ、冒頭の御礼の挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局

それでは、本日の資料について、確認をお願いします。

まず、事前に送付させていただきました資料としまして、資料1～10。資料10につきましてはモノクロA4サイズで送付させていただいておりましたが、本日カラーのA3のものを資料10としてご準備させていただいております。また、それ以外に、次第を準備しております。参考資料につきましては1から4までございます。皆様お揃いでしょうか。

【2 点検・評価委員及び事務局の紹介】

<省略>

【3 点検・評価の目的及び概要について】

○事務局

次に、次第3「点検・評価の目的及び概要」について、私から説明いたします。

資料3をご覧ください。まず、1の目的ですが、点検・評価につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、教育委員会自らが施策の成果や課題を確認し、今後の教育行政の改善につなげるために行うものです。本市では、教育大綱や教育振興基本計画の観点から整理し、施策のブラッシュアップに生かすことを目的としております。

次に、3 点検・評価の対象事業ですが、第2期教育振興基本計画に掲載している19の施策を対象としております。

続いて、4 実施内容です。

まず、(1)各課の取組。こちらは、各課で令和7年度の取組実績や課題、令和8年度の状況を「点検・評価シート」にまとめています。その資料が資料6になります。

次に(2)評価委員による点検評価です。

委員の皆さまには例年どおり、まず書面で評価していただく流れとなります。評価基準につきましては、資料7に示しておりますが、昨年度と変更はございません。評価とともに率直なご意見をいただければ幸いです。この部分の各課が行う自己評価と委員の皆様の実施していただく書面評価までは例年どおりですが、(3)ヒアリングについて、先ほど教育長からもお話がございましたとおり、次の第3期教育振興基本計画では“プラットフォーム型”の枠組みを導入しております。そのため、今後の計画を見越し、ヒアリングの進め方を、プラットフォームごとに行う形へ改め、進めたいと考えております。本日は、議事の②において、この新しいヒアリング方法についてご協議いただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

続きまして5 結果の活用です。

点検・評価の結果につきましては、令和9年度の取組内容や、第3期教育振興基本計画の策定に反映させてまいります。

次に、6 結果の公表について、最終的には報告書として取りまとめ、市長や市議会へ

の報告とともに市ホームページで公表いたします。

最後に、7 今後のスケジュールは記載のとおりです。後ほど、担当より説明させていただきますが、まずは 8/10(月)までに、一旦、委員の皆様には資料8の評価表をご提出していただくことになるかと思いますので、よろしくお願いします。

点検・評価の目的や概要を説明させていただきましたが、何かご意見やご質問等ございましたらお願いします。

○委員

特になし

【4 委員長及び副委員長の選任について】

脇田委員が委員の互選により委員長に就任
委員が委員長の指名により副委員長に就任

【5 議事】

①点検・評価の進め方及び評価基準について

○委員長

それでは、議事の1点目、「点検・評価の進め方及び評価基準について」事務局より説明をお願いします。

○事務局

まず、資料4から資料9について説明させていただきます。資料4は、教育振興基本計画の19の施策と施策ごとの取組を一覧にまとめ、担当課を記載しております。

また、資料5は、計画に設定している成果指標と目標に対し、令和7年度末時点でどこまで到達しているのかを整理したものです。

はじめに1点修正がございます。資料5の2ページ目の施策11の番号3「幼児教育・保育アドバイザーの配置人数」についてですが、令和5年度が「4人」となっていますが正しくは「2人」ですので修正をお願いします。

それでは資料5の指標について、いくつか数値を確認します。

○施策1

・番号1・2の全国学力・学習状況調査で『国語や算数(数学)の授業内容がよくわかる』と肯定的に回答した児童生徒の割合は、令和6年度と比べると小学校・中学校ともにポイントが下がっています。

・また、番号5の「1日当たり30分以上読書している」と回答した児童生徒の割合も、第2期振興基本計画を策定した令和3年度と比べると減少しています。中学生は20%を割っている状況です。図書館や各園所・学校で読書に親しめる環境づくりを進めているものの、厳しい数字となっています。

一方で

○施策2

・番号1・2の「自分にはよいところがある」「人が困っているときは進んで助ける」といった自己肯定感や他者への関わりに関する項目は、増加しています。

続きまして、次のページの一番上

○施策7

・こどもたちの生活習慣については、番号1の「朝食を毎朝食べている」が最終目標の90%を超えているほか、番号2・3の「毎日同じくらいの時間に起きている・寝ている」も、この4年ほどで大きく増加しており、生活リズムは整ってきています。

・一方で、番号4の「体を動かす習慣」については、小学校・中学校ともに減少傾向となっています。

続きまして次のページの

○施策15

・番号1の「学校の授業時間以外に普段、1時間以上勉強をする」と回答した児童生徒の割合は、年々減少しています。

これらの指標は、こどもたちの様子の一部を切り取ったものではありませんが、学習への向き合い方、生活習慣、読書や運動の状況、自己肯定感といった、日々の姿の変化を多面的に示すものです。良い傾向が見られる項目がある一方で、改善が必要な項目もあり、こどもたちの現在地を丁寧に捉える必要があると考えています。

次に、資料5で示した指標だけでなく、活動実績や課題、今年度の取組をまとめたものが資料6「点検・評価シート」になります。

このシートに基づき、委員の皆さまには全19施策の評価をお願いする形となります。

続いて、資料7の評価の基準についてです。

評価にあたっては、この基準をもとに5段階評価でお願いしたいと考えております。例年同様、評価項目は「施策目標への達成状況」と「取組の施策への貢献度」の2項目としています。

資料8「施策別評価表」には、5段階評価とあわせて、各施策や取組に対するコメントの記入をお願いします。

コメントにつきましては、施策全体に対するご意見、取組の状況に対するご感想、今後に向けた工夫や期待など、自由にお書きいただければと考えております。

また、5段階評価だけでは伝わりにくい意図や背景、評価に至った理由などがございましたら、コメント欄に補足いただけますと、次年度以降の改善に生かしやすいと思います。

各委員の皆様からこの「施策別評価表」を提出いただいたのち、資料9「点検・評価点数一覧表」に、達成状況・貢献度の2項目ごとに事務局で点数を集計し、各施策について

A～Eの5段階で評価を整理したいと考えております。

ここまでで、資料4～資料9の内容と評価の流れをご説明しました。この後、点検・評価の進め方および評価基準についてご審議いただき、委員の皆様からご承認をいただきましたら、事前にお送りしております資料8「施策別評価表」に基づき、書面での評価を進めていただければと考えております。

提出期限につきましては、8月10日(月)を目途に、事務局までご提出をお願いいたします。第2回委員会では、委員の皆様からいただいたコメントを含む書面評価を共有し、施策ごとの状況を確認できればと考えております。

点検・評価の進め方及び評価基準についての説明は以上です。ご審議のほど、よろしく申し上げます。

○委員長

ただ今の説明に対して、委員の皆様から質疑やご意見等はございますでしょうか。質疑については、進め方や評価基準についてそれぞれあると思いますので、二つに分けていただければと思います。質問につきましては、事務局において回答していただきます。

数値が下がっているなどいろいろありましたが、小学生や中学生が学校や家庭等、日常生活を過ごす環境の変化ということも少し気になる。例えば読書する時間が減っている環境。以前は1時間くらい読書をするこどもがたくさんいたのに、それが減っていった条件のようなものはあるのでしょうか。こどもの努力や学校や保護者の努力とは別に何か作用しているのか、少し気になります。

○事務局

学校現場では朝の10分読書は継続して実施しているのになぜなのか、担当からはもう少し分析していきたいと聞いています。読書時間を削ったとか、何か大きく変わったということは聞いておりません。

○委員長

これだけ数値が下がるというのは、外的な要因があるのではないかと思います。こどもを方向付けるような条件がこの地域社会の中で動いているのではないかと思います。急にわかることではないと思いますが、こどもが生活するレベルのところから観察していかないとつかめないような情報だと思いますが。こどもへのヒアリング等により、普段どうしているのかなど多く聞いて集約していくなど、そのようなことも行っていく必要があるのかなと思います。先生がお忙しいのはわかっていますが、そのようなところでこどもとコミュニケーションをとることは悪いことではありませんので。

○委員

委員長が今お話しされたことは新しい気づきのような気がします。今まではどちらかと言えばこどもを中心に取組を進めてきて、数値的に良くなったというような形で評価をしがちだが、教育現場のこどもが置かれている環境はこの1年や1年半の間に大きく変化してきていないだろうか。家庭の部分については、難しい部分があるかもしれませんが、保護者が最近困っておられるようなことやこの1年や1年半の間に家庭環境で大きく変わった部分はないのか。地域や行政で取り組んできたことが今年1年やもう少し長いスパンで見ると大きく変わってきているなどがあれば、こどもはいつものように進

めていても、前の環境の取組等を進めていく中で、こどもの様子は変わらないが周りの環境が変わってきているので、改善した部分とこどもや先生方の努力によってこれまで動いてきたんだという部分があるんだと思いました。

○委員長

読書や勉強以外に夢中になるもの、例えばテレビゲーム等が出てきているのか。そのあたりを知っておかないといけないとせつかく評価しても空回りしてしまう。現場の実態がどうなのかという部分の情報収集。数パーセントではなく、数字の下がり方が急なので。ヒアリングの仕方にも影響があると思う。原因をもう少し調べた方が良いのではないかと思います。こどもは元気がいいので、おそらく読書や勉強以外にやっていることがあるのではないかと思います。

○委員

こどもだけではなく自分もですが、SNS や動画等いくらでも楽をして楽しいことがたくさんあると思います。読書や勉強は自主性に任せては絶対難しいので、何か学校としての対策が必要なのかなと思います。自分もこどもであればきっと誘惑に負けて勉強せずに動画を見てしまうと思うし、それは今後も変わらないと思う。『生き抜く力』と謳っている以上、我々はどうすればいいのかということを考えていかなければいけないのかなと思います。

○委員長

新聞紙上でも問題になっていますよね。年齢や興味に合わせたショート動画がいくらでも次から次に出てきて、間に広告が入ってくるというもの。こどもに対してそれを禁止する国も出てきています。小学生が SNS をするのかどうかはわかりませんが、Youtubeなどのショート動画であれば見ていて、その影響は大きいかもしれません。今、委員がおっしゃったことは非常に大きな問題かもしれません。

○委員

いつも万遍なく評価・点検させていただいていますが、私も教育現場にいるわけではないので、教育現場がどのようなことに困っているのか、どのようなことが必要なのか、緊急にしなければならないこと、重要なことが文字の中からではどうしてもわかりづらいので、その辺りは実際に現場におられる皆様方から逆に投げかけをしていただいて、問題提起をしていただいた方が、教育現場以外にいる我々でも何かお役に立てることがあるのではないかというお話ができと思っていますので、ぜひ教えてください。

○委員長

そのような仕組みがあれば教育委員会でも題材として挙げていただいて、評価することもできると思います。

○委員

一律に実績や課題を記載していただいていると思いますが、例えば食育の推進が大事なのか、他に何か違うものが大事なのか、メリハリ付けが資料だけではわかりにくいので、そこをもう少し御思案いただけると、8/10 までに考える時間がいただけるのかなと思います。

○委員長

今回は少し難しいかもしれませんが、今回のプラットフォーム型点検・評価というのはメリハリをつけてやっている部分になるのかなと思います。ここが肝の部分ですよというものを集めて評価していくという形になりますので。委員のおっしゃるレベルまで達しているかどうかは別にして。ただ、現場のことはよくわからない、数値化されると何かベタとした情報になってしまって、現場の切迫度みたいなものがよくわからないというのは確かにそうかもしれません。おっしゃる通りです。先ほど私が申しあげた、こどもを取り巻く環境がどのようなになっているのか、そのようなことも含めてもう少し把握さ

れた方が点検・評価を行う上で良いのではないかなと。背景みたいな部分です。急に何かどうこうできる話ではないですが、お考えいただければと思います。

○副委員長

全般的な話になってしまいますが、令和6年度、令和7年度、令和8年度の点検・評価の資料を見ていると「施策の方針」や「概要」「実績」「課題」で3年間全く変わっていない項目があります。数値も変わっていないというものもあります。その事柄に対する施策に対して熱い思いがあって、周りが何と言おうとこれで行くんだということであればそれでいいと思いますが、点検・評価をしている中である程度反省が出てくると「概要」や「課題」「数値」も若干変わってきて然りなのかなと思います。どの課のどの取組かというのは忘れましたが、変わっていないのであればなぜ変わっていないのか、変えたのであればこのように変えたというのが分かるものがあると、この点検・評価が生きたものになるのではないかと思います。

○委員長

ルーティーンでやっていないかということですね。先ほどの話と同じで、現場との関係の中で緊張感をもってやっている、委員がおっしゃったような前年と同じではなく、これもやっていこうと思うのが良い形だと思います。

○委員

今の話を聞かせていただいて、資料5の数値が上がった、下がったと一喜一憂してしまうのではなく、背景をきちんと捉えておかないと数字に騙されてしまうというか、数字に左右されてしまうのがいけないと感じました。資料5を見たときに、施策3の2つ目の「いじめの解消率」というのがあって、令和8年度の最終目標は100%で、同じ項目の令和2年度が93%あったということなんですが、令和7年度については小学校で37%、中学校で36%という、3分の1程度・4割弱の数字にしかならなかったのは、どこを対象に、どのように聞いてこの数字が出てきたのかというのがなかなか読み取れなかったのが難しいなと思いました。

○委員長

何をもっていじめというのかで出てくる数字が違ってきます。だから数値だけでは難しいですね。

○事務局

担当課の話では、一番最初にとっている数字と後半にとっている数字が違うのは、いじめは継続していくので年度で終わるということはない。この部分で指標に挙げようと思うと1月か2月くらいの時期で切って何%ですと言わないと、残りの2月や3月の分まで入れてはととてもできない。2月や3月に起ったものは4月以降も継続して見ていかないといけない部分もあるので、近年のパーセンテージは年度ごとに確実に数値を取っていただいているので、これは終わっていない、継続してやっていますというものがあると今回のような低い数値になってしまうということは聞いています。

○委員長

もちろん解消しないといけないのですが、そのようなことに対して現場が本人のために親身に対処してあげられているのかということの方が気になります。本当に苦しんでいる当事者の立場に立ってどれだけ対応できているのかが示されることの方が大事なかなと思います。解消を最終の目標にすることは大事ですが、まずこどもをどれだけ守ってあげられているのかを知りたいという気持ちがあります。よく不祥事で、学校がきちんと対応していなかったじゃないかというのがあります。そのようなことを新聞で読んでいたので余計にそのようなことを思ってしまう。管理職からすると自分のところからいじめが出るということはすごくネガティブな反応になるというのはわかりますが、一番大事なことは当事者にとっての話ですから。そこも急に何かできるわけではなく、縛

りもあると思いますが、感想のようなことを申し上げます。

数字だけで一喜一憂するのはどうかというお話もありましたが、確かにそうで、数字の変化をどのように解釈するのか、背景や社会的な文脈も気になる部分については情報をセットした方が委員は評価しやすいと思います。数値が上がってなくても現場ではいじめに対してこのような改善をしていますということであれば、100%解消に向けて頑張してほしいですが、頑張っておられますねと言えると思います。

○委員

委員がおっしゃったことにも関係すると思いますが、資料6の点検・評価シートを見させていただくと、特に P.26 の 8-2 の「交流を通してふるさとのよさを学ぶ活動の推進」の部分で、富士宮市のこどもとの交流だけが記載されていますが、昨年度から松前町に行ったり、今年度は来ていただいたりということに対しては「概要」にプラスできるのではないかと思います。そこが落ちていると実態と「課題」「取組」が浮かび上がってこない。事業の概要についてもきちんと整理しておかないと抜け落ちる点が出てくるのかなと思いました。

○委員長

概要というのは計画であらかじめ設定して、それがどれだけ達成できたのか、それをやりながら新しいことが見つかって、ただそれがこの点検・評価に出てこないじゃないかということですね。現場の方々が頑張っておられるのに。それは令和8年度の取組状況の中で「概要」のことはしっかりやりましたが新たに関連するこのようなことも始めましたという部分が入っているということですね。

○委員

そこが変更できないものなのかどうか。

○委員長

その部分は計画で決まっているので、プラスアルファでわかるような工夫があれば。例えば取組状況の中に「その他」のような部分で今のお話が加わると、これまでの取組が原点となって、新たな地域との交流が生まれてきて、そこでこどもが発見しているんだなということが分かるということですよ。表の作り方が上から落としていく話だけなので、現場の中から新たなものが浮かび上がってきたらそれも書いていただけると良いと思います。政策評価論の専門家でもないのによくわかりませんが、単に管理するだけであればトップダウンで良いのですが、現場からの情報を合わせて見えてくるというような形になっていた方が、委員の皆さんはやりやすい。基本は数字かもしれませんが、同時に記述された内容でこのようなことも頑張っているんだなとわかるありがたいです。急に資料をやり替えてというようなことは言いませんが、そのようなことも考えていただけるとどうなのかということと、点検・評価という枠組みは硬いものだと思いますが、今の資料と合わせて読めるようにしていただくなど、何か現場のリアリティが伝わってくるような工夫をお願いしたいです。ここ数年で大きく変化していることや現場での新しい取組、それもプラットフォーム型の点検・評価の中で見えてくることかと思います。どの程度のご負担をいただくことになるかわかりませんが、職員の方々もその方が良いのではないのでしょうか。

○事務局

おっしゃっていただいたように「概要」は計画に掲載している部分になりますのでそこを触ることはできませんが、「実績」の部分に関連して実施したことなどを別途追加資料で見えるような形で提供させていただけるように、担当課に確認します。

○委員長

そのようにしていただいて、現場と点検評価委員会の風通しがよくなると良いと思いますので、よろしくお願いします。

○委員

資料5の成果指標についてですが、令和8年度が最終目標になっていますが、その時に調査がなかったということで項目なしというものがいくつかあります。その部分について、最終目標に対するジャッジはどのようにされるのでしょうか。最終目標に到達できた、できなかったというのは基本的に数値があって課題があると思いますが、項目なしが続いた場合、その成果指標自体は評価をしないということになるのでしょうか。

○事務局

学力学習状況調査で調査項目が外れてしまって、項目がないという部分になると思います。それに代わるもので評価ができれば、最終年度であるため評価したいと考えています。ただ、現場からそれに代わるよく似た項目もないということになれば、成果指標から外さざるを得ないかなと考えています。

○委員

わかりました。

○事務局

第3期教育振興基本計画で小学校5年生から中学校3年生までや保護者に対してアンケートを取っています。まだ、7月末までアンケート期間があり、その後の集計になりますので、いつお渡しできるかお約束はできませんが、その辺りもまとめさせていただいて一緒にご覧いただけると、こどもを取り巻く状況はもう少しわかっていただけるのかなと思いますので、併せて資料としてお渡ししたいと考えています。

○委員

資料6の53ページ18-3の「実績」の部分で学校教育課の書き出しの2行の部分で「各校の実態に応じた「早寝・早起き・あさ・し・ど・う（あいさつ・食事・読書・運動）運動」の推進を通して、家庭学習の習慣を確立できるよう」がなぜ「文化芸術に触れる機会の拡充」に関係しているのかなと思います。

○事務局

確認します。

○委員長

後程、ご回答をお願いします。

○委員

19の施策を見させていただいて、成果指標の部分で「こんな取組をしています。」などの項目が出ていますよね。資料5の一番最初の部分で、例えば施策1であれば1から7までの成果指標が並んでいて、せっかく近江八幡市で取り組んでいるすごく重要な、運動やスポーツなどを、先生方や今であれば部活動についても動いてきているのに、その部分も評価してあげたいなと思いながら見ても、どちらかと言えば一週間の総運動時間で集約されていたりして、体力面や健康面というよりは学びの方にシフトが大きくなっているなと感じました。実際に取り組んでいる学校現場ではすごく頑張っておられていて、教育委員会もバックアップされているので、評価したいが評価するのがむずかしいなと思いました。当然19の施策の中で評価を進めていかなければいけないのですが、教育現場でいろいろ取り組んでおられていて成果を出している部分と教育委員会がいろいろな施策を進めていてそれに対して効果的に、又は不十分ではないかという評価と、少し乖離している部分があるのかなと思います。現場で頑張っている、先生やこどもも含めて、どこかで評価したい。点検評価の中に現れると、市民の目もよいのではないかと思います。

○委員長

委員が先ほどおっしゃっていた他の地域との交流も活発になっていますよと同じで、現場の中から工夫をして盛り上げていくような取組をしていることはここには載ってお

らず、上の大きな計画から下ろしてきているだけです。その時に出てきた取組（OODA）はこれとは別に何か読めるようにしておくの良いのかなと思います。我々の仕事はトータルに見ていくことですし、顔の見える関係の中でできているので、現場を応援できるようなことが言えれば良いのかなと私は思います。ダメ出しすることが仕事ではなく、可能性をどんどん見つけて引き出していくことが大事だと思います。少し工夫をお願いします。

○事務局

先ほどご指摘いただいております資料6の53ページ 18-3 の「文化芸術に触れる機会の拡充」の部分について、昨年のもとの照らし合わせて確認させていただきましたところ「各校の実態に応じた「早寝・早起き・あさ・し・ど・う（あいさつ・食事・読書・運動）運動」の推進を通して、家庭学習の習慣を確立できるよう」については不要です。失礼いたしました。

○委員長

最終確認していただき、委員に返してあげてください。この項目について、いろいろご意見いただきましたが、これからきちんと対応していただくということで、基本的に提案通りに進めてよろしいでしょうか。

○委員

はい。

○委員長

今回ご意見をいただいた部分についてすぐに修正できるかどうかは、根本的な部分もありますので難しいかとは思いますが、事務局のできる範囲で対応していただきますようお願いいたします。点検・事業の性格と限界ということも本日のご意見の中から出てきていますので、そのことも踏まえていただいたうえで、有益なご意見をいただけると教育委員会でも対応していただけるのではないかと思います。

それでは点検・評価の進め方及び評価基準について、ご意見はありましたが、事務局の提案通り承認いたしました。

事務局から事前に送付されています資料8「施策別評価表」について8月10日（月）を目途に各自ご提出くださるようお願いいたします。

②ヒアリングの実施内容について

○委員長

次に、議事の2点目、ヒアリングの実施内容について、事務局より説明をお願いします。

○事務局

昨年度・一昨年度の点検・評価委員会では、「個々の取組を個別に進めるだけでなく、連携できる場、いわゆるプラットフォームを設定して取り組んではどうか」というご意見をいただきました。このご意見を踏まえ、今年度の点検・評価では、委員の皆様にも横断的に見通していただけるよう、まず“プラットフォームを設定する”ことが必要だと事務局で整理しました。

ただ、今年度の評価対象となる令和7年度は、第2期振興基本計画に基づく評価となります。第2期振興基本計画には、そもそもプラットフォームという考え方が位置付けら

れていません。そのため、どこを起点にプラットフォームを設定するのか、事務局で検討を進めました。

本市では毎年4月2日に、公立・私立の学校園の管理職の皆様にお集まりいただき、「教育行政基本方針説明会」を開催しています。その年度に重点的に進める施策を共有し、学校園とともに取組を進めるための場です。

そこで、今年度の点検・評価に限り、この重点施策を手掛かりに、令和7年度版のプラットフォームを事務局として設定することにしました。

参考資料としてお示ししている「令和7年度近江八幡市教育行政基本方針」の6ページに、6つの重点施策を掲載しています。事務局では、この6施策をもとに、単独又は複合の形で3つのプラットフォームを整理しました。6ページをご覧くださいながら、本日追加で配布させていただきました資料 10 のプラットフォーム型点検・評価ヒアリングシート(案)をご確認ください。

順にご説明します。

○資料10を1ページめくっていただきまして、プラットフォーム1については、重点施策①を単独で位置付け、『生きる力から生き抜く力まで育成プログラムの開発・実装』（教育研究所体制拡充）をプラットフォーム1としています。

関連する施策の選定理由については1ページめくっていただくと【取組の関連性】というところがございます。こちらの一番右の列に理由を記載しております。例えば1-1は「主体的・対話的で深い学び」を通して、課題発見・課題解決能力を育成する中核施策であり、「生き抜く力」を授業で具現化する取組である。」という理由から、また1-2についても「個性や多様性を尊重し、一人ひとりの可能性を引き出す教育は、本ミッションの根幹となる。」という理由から選んでおり、これらの取組を含む施策1を関連する施策として取り上げています。また取組5-1、5-2であれば「幼保小中を貫く教育プログラム開発・実装を支える基盤施策となる。」ことから選んでおり、これらの取組を含む施策5を関連する施策として取り上げています。他の施策についても記載の理由から取組を選び、その取組が含まれる施策を取り上げています。

○続きまして1ページめくっていただきまして、プラットフォーム2ですが、

重点施策②「中学校部活動強化支援」と、重点施策④「小学校教科担任制」を組み合わせ、

『小学校教科担任制と中学校部活動強化支援による“学びと活動の余白創出”』をプラットフォーム2としています。

関連する施策の選定理由についてですが、1ページめくっていただきまして取組2-1を「他者理解や協働性、規範意識を育み、多様な人と関わりながら成長する力を支える。」ことから、2-3は「多様性を認め合い、対話を重視した教育を推進することで、安心して挑戦できる教育環境づくりにつながる。」ことから、2-4は「こども同士が互いを尊重し合える関係づくりを進め、主体的な学びや活動を支える基盤となる。」ことから選ん

であり、これらの取組を含む施策2を関連する施策として取り上げています。他の取組についても記載の理由から選んでおります。

○続きまして1ページめくっていただきまして、プラットフォーム3について、重点施策⑤を単独で位置付け、『読書活動の拡充 ― ビブリオバトルの水平展開』をプラットフォーム3としています。

関連する施策の選定理由についてですが、1ページめくっていただきまして取組 1-1 を「単なる読書活動ではなく“主体的・対話的で深い学び”へ発展させる基盤」となることから、また 1-7 は「読書活動を「個人の読書」から「共有・対話・発信する学び」へ発展させる役割を担う」との理由から、また 1-3、1-4、1-6 は読書関係の取組であることから選んでおり、これらの取組を含む施策1を関連する施策として取り上げています。他の取組についても記載の理由から選んでおります。

以上の3つのプラットフォームは、令和7年度の重点施策を横串で見えていただくための“共通の物差し”として事務局で設定したものです。説明は以上となります。

○委員長

ただ今の説明に対しまして、委員の皆様からご意見はございますか。新たな取組ですので、疑問に思われる点多々あると思います。どんなことでも結構です。

○委員

今年のヒアリングは、これに基づいて各担当課が説明していただくという理解でよろしいですか。

○事務局

はい。

○委員長

前に聞いていてもったいないなという話があり、もう少し助け合ったり、情報交換されたりできるのではということをお話したことの結果が、この形だと思えます。

4月に校長先生や園長先生にお話しされたということですが、反応はどうでしたか。

○事務局

すごく反応があったということはないです。

○委員長

このようなことをやることの意味を職員の方々自身が理解していただかないと、今までと同じようなことをやっていたらあまり値打ちがないですね。職員の方々の仕事がやるのが楽しくなることの結果として市民も笑顔になるということが理想ですので、その理想を目指して、風通しを良くして助け合えるところは助け合おうよということです。このようなことは理屈ではなく、あの局面でこういうことがあって助かったとか、相談されたり相談したり、そういう相互の関係が組織の中にしっかり蓄積しているということがすごく大事だと思います。そのように皆に思ってもらえるようにやるという部分もあります。私たちの中ではソーシャルキャピタルと言いますが、お互い信頼しあって助けたり助けられたりする、そのような人間関係が周りにたくさんある人ほど幸せだと思います。ぜひそのように思う人が職場の中にも地域との間にも増えてほしいと思います。

先ほど委員がおっしゃったような、現場の中から創発的に新しく生み出してくる、そのようなことと横の連携がどこかで繋がっていると良いなと思いますし、そのようなこと

を職員の方にも実感していただけると良いなと思います。個々の机の上で仕事をするのではなく、ネットワークの中で自分たちの事業をやっていくという感覚をしっかりと持っていただけると良い感じになるのかなと思います。まちづくりや地域づくりも同じです。

○委員

ヒアリングシートがこのような形で出ていたの、見せていただいて、今までですと項目ごとに細かく見て評価してきたのを、1つの大きなプラットフォームの内容で評価しましょう、みんなで考えていきましょうということがあり、ビジョンが分かって、ヒアリングで説明を伺えたりという場面になって、シートのとおりに進むのか、それとも学校教育課の中にかみ合いながら取り組んできていることを説明していただけるのか。例えば取組1-1、1-2、2-3までは学校教育課が進めるんですが、単に読んでヒアリングになってしまうのか、それとも全体を見て学校教育課としての思いを出していただけるのか。

事務局

個々の取組は資料6で見ていただこうと思っています。こちらが思っているように進むかはわかりませんが、こちらが想定しているのは、今年のヒアリングはプラットフォーム型で行っていただくため、個々の取組を説明するのではなく、記載例にも書いていますが、全体を見てお互いに連携してきたことを中心に記載させていただいて説明させていただくというようなことを思っています。

○委員長

課長さんが説明いただけるのですか。

○事務局

プラットフォームごとにどこかの所属がとなるのか、そこもまだ決めておりません。

○委員長

今回の趣旨とシートを埋めていくにあたって、今回の方針と意図、何のためにやるのかを徹底していただければと思います。職員の方が自分たちで自分たちの仕事を自主管理していくものだと思っていただきたいです。

○委員

ヒアリングまでにそれぞれの所属が話し合っていていただいて課題や今後のことも共有されたうえでヒアリングに臨まれるということによろしいですか。

○事務局

こちらもそれだと思っています。

○委員長

自分たちの事業を棚卸するような形ですよ。年度途中ですが自分たちの事業を見ていただくいいチャンスにさせていただきたいです。

○委員

新しい手法で考え直すというのはすごく面白いなと思います。今までと同じやり方ですと頭がその形で固まってしまって、下手をするとルーティーンになってしまって、あまりしっかり考えないで発信してしまう。プラットフォームになって各課が事前に「このビジョンに対してはこうしていくんだ」というのを話し合う機会があるということがすごく意義があるなと思って聞かせていただきました。

○委員長

今は教育委員会の中だけですが、このような事業の進め方が市長部局とも事業によっては相互乗り入れできるような形になった方が良くなると思います。近江八幡市の規模だとできるようなわくわく感があります。

○委員

今まではこのような形ではなかったの、いろいろなものが横断的に進めていくとい

う点ではいいのではないかなと思います。逆にプラットフォームでいろいろと関わりながらの評価又はこれから進めていく時に、プラットフォームという言葉をもっと市民の皆さんや学校現場の先生方を含めて広めていくことは大事なかなと思います。わかりやすく説明してあげるといことと広めるということとは大事ではないかというのが1つ目です。ときどき現場の管理職の先生と話をする機会があって、新しいことに取り組むことはすごくうれしいし、生き生きなれると。学校によって課題がいろいろあるので、教育課程の上では十分な取組にはならないが、本当であればこんなことをしたいという学校と違うことをやりたいという学校があるので、プラットフォームという大きな枠組みの中で、うちの学校はこのようなことをやりたいんだという指標になるようなヒアリングシートになるといいなと。教育特区を作ったり特例校でやってみたいということに対して後押しができるようなことがヒアリングシートに出てくればうれしいなと思っています。

○委員長

対話ができる場があるということが大事。わかりやすく現場に伝わればいいなと思いますし、そのような対話の中から現場の知恵に基づいて新しい何かが出てくる、教員と地域の人たちの間から新しいものが生まれてくる、それがパワーになるのではないのでしょうか。近江八幡の教育の力になると思います。そのようなところに文化や自然なども織り交じって近江八幡ならではの人がつくりがけるのではないのでしょうか。そのような方向に行くための土台のような形でうまく使っていればありがたいです。道具ですので、道具に支配されればそれまでですので、近江八幡ならではの教育をするためのツールとして使いこなしていただくように。

○教育長

プラットフォームのことですが、事業評価の委員会の中で相互乗り入れや連携など、目標に向かって皆がどのように協働してやっているんだということが見えないというご意見を頂戴して、そのようなことを実現したいということで教育委員会を挙げて考えてまいりました。冒頭にも申し上げましたが、第3期教育振興基本計画では、計画からプラットフォームをビルトインしていこうということで、今ご議論いただいています。計画の策定委員会に出すプロセスにおいてそれぞれのプラットフォームをどのようなものにしようかということをもとに教育委員会事務局の中で、担当課や教育委員会全体で教育総務課を中心に議論をまとめていくプロセスにおいて、ようやく、今ご意見をいただきましたように、本当に自分たちの事業だけを狭い視野で行って、それを評価すれば個別の評価のようなどころからプラットフォームに意識が育ってきている様に私としては思っております。ただ、令和7年度の事業評価において、そのプラットフォームを重点ビジョンから曲りなりに作らせていただいて、令和7年度の事業評価をするにあたって各担当や所属長がプラットフォームに基づいた説明ができるような実績は多分ないと思います。令和7年度の時点というのはプラットフォームのご意見を事業評価でいただきましたことで重点ビジョンを示すという取組をさせていただきました。このことにより、今年はこれが重点で、協力できる部分は協力してやっていくんだという動機づけのために年度当初に発表させていただきましたし、ある程度、そのような受け止め方は管理職にもしてもらい、教育委員会の各課もしてもらっているとは思いますが、計画策定にビルトインされていない段階での事業が済んだものでございますので、どこまでこれに基づいてできるのかというのは課題があると私自身も考えております。今、第3期教育振興基本計画を策定している中でそのような意識はしっかりと根付いていますので、その意識に基づいて令和7年度はプラットフォームという観点からできていなかったところ、このように改善すべきところはあるというような考え方は持てると思っていますので、そのような観点でできるだけ事前に趣旨も含めて情報を共有させていただいて、ご説明ができるような準備をしていきたいと思っています。

○委員長

良いことばかりではなく、時間が足りなくて不十分だとか、職員の中にスピリッツやマインドがうまく受け止められていないとか、そのようなことも含めて説明していただくと良いかなと思います。このようなものがもう少ししっかりしたものとして制度の中に位置づけられるのであれば、近江八幡ならではの取組として行っていただけるといいのかなと思います。前回意見があって、さっそく主体的に取り組まれているので、こういうのがすごく大事だなと思います。これがもっと各担当課だったり新しいことをもっと形にしていけば仕事をもっと楽しくなると思います。他によろしいでしょうか。

○委員

はい。

○委員長

それではプラットフォーム型の点検・評価シートについては基本事務局提案の形で、今こういうところは大丈夫かという部分もありましたし、教育長からも現状についてお話がありましたが、今度の評価ではそのような点も併せ持って応援していけるような評価ができればと思います。続きましてヒアリングの実施方法について、事務局より説明をお願いします。

○事務局

資料10の1ページ目をご覧ください。ヒアリング当日の進め方につきまして、まずは事務局(教育総務課)においてプラットフォーム及び目指すビジョンについて説明させていただきます。次に取組の各担当所属より取組内容及び複数課(取組)にまたがる横断的な取組の成果及び見えてきた課題について説明をさせていただき、それらの内容をふまえ、委員の皆様にはヒアリング並びに意見及び評価をしていただくという形式で進めさせていただこうと考えています。ヒアリング時間については、あくまで目安ですが1プラットフォームあたり30分～40分程度で想定しております。説明は以上です。

○委員長

ありがとうございます。何かご質問はございますか。先ほど、この部分に踏み込んだ質問やご意見もありましたが。

○委員

特に意見なし

○委員長

それでは先ほど出ていたように、ヒアリングに出席していただく方に趣旨をよく理解していただくということが前提にはなりますので、よろしくお願いします。ここまでたくさんのご意見をいただきましたので、整理したいと思います。事務局でコンパクトにご報告いただけますでしょうか。

○事務局

いろいろご意見いただいた中ですぐに反映できる部分とできない部分があります。

すべてを次のヒアリングまでに反映することは難しいですが、いただいたご意見の中で、資料6について、新しい取組などがあればまとめさせていただいて、別に資料を作成させていただきます。資料6の 18-3 の修正部分については担当課に確認させていただき、改めてご報告させていただきます。ヒアリングシートとヒアリングの進め方につきましては、基本的には提案させていただいた形で進めさせていただきます。ヒアリングシートにつきましては、現状「案」になっていますので改めて作成したものを送付させていただきます、そちらで評価をお願いします。

○委員長

今、ご説明いただきましたが、トライアルな形になりますがヒアリングを進めてもよろしいでしょうか。

○委員

はい。

○委員長

ありがとうございます。それでは、次回、8月25日開催の第2回点検・評価委員会では、ただいま確認しましたとおり進めて参りますのでよろしくお願いいたします。事務局におかれましては、担当者と担当課に趣旨をよく理解していただけるようにご努力をいただければと思います。

③その他

○委員長

その他について事務局より何かございますでしょうか。

○事務局

第2回委員会についてですが、8月25日(火)に開催させていただきます。当初、終日でご予定をいただいていたかと思いますが、本日承認いただきましたヒアリングの進め方ですと1プラットフォームあたり30～40分の想定ですので半日程度で終了するかと考えています。日程・開催場所等については後日改めて書面にて連絡させていただきますが、午後からの開催になるかと思しますので、よろしくお願いいたします。

また本日承認いただきました、プラットフォーム型点検・評価ヒアリングシートにつきましては完成したものをヒアリング当日までにメールにて送付させていただきますのでよろしくお願いいたします。こちらにつきまして、紙でも必要でしょうか。

○委員長

委員の皆様いかがでしょう。

○委員

特に意見なし。

○事務局

それではデータの送信のみとさせていただきます。最後に、事前に委員のみなさまにお送りしております資料8「施策別評価表」については、8月10日(月)を目途に事務局まで提出をお願いします。こちらにつきましてはデータでいただけますとありがたいです。

○委員長

最後に、トップダウンでは漏れてしまうような、頑張っていたいている取組も評価の対象にはなっていませんが、当日少しでも聞かせていただけるとありがたいですので、お伝えください。

【6 閉会】

○委員長

それでは、議事は全て終了いたしましたので、進行を事務局へお返しします。

○事務局

本日はお忙しい中、点検・評価の進め方のご承認、またヒアリングの実施内容についてご承認いただき、ありがとうございました。8月25日の第2回委員会では、本日ご審議いただいたプラットフォームを用いたヒアリングをお願いすることとなります。こちらといたしましても初めてのことでありますのでうまく進められるのかというドキドキと新しいことにチャレンジするという方のドキドキと両方で進めていきたいと思っております。各課と事前に調整しまして当日を迎えたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。また、先ほどから8月10日までと申し上げておりますが、短期間での提出となりますがどうぞよろしくお願いいたします。それでは第1回点検・評価委員会を閉会いたします。長時間にわたりありがとうございました。